



- 発行月 令和2年3月
- 発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)
- URL <http://www.chuo-hp.jp/>

《地域医療連携推進の基本方針》

1. 顔の見える連携
2. 地域連携バスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHSによるDr.Direct Call
5. 24時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

2019年度 年度末のご挨拶

副院長 兼 地域医療福祉連携室長 菊池 貴彦



平素より岩手県立中央病院の地域連携にご協力いただき感謝申し上げます。

2019年度を象徴する出来事といえば、やはり岩手医科大学附属病院の移転でした。移転の数ヶ月前から各部門ごとに対策を策定し、移転期間中は他の県立病院からのスタッフ派遣も得て大過なく切り抜けることができました。その際に大変ありがたかったのが関連病院の皆様のご協力です。移転前に盛岡医療圏の関連病院を訪問させていただき、当院の空床確保や救急患者さん増加へのご協力をお願いいたしました。関連病院の皆様からは、早期転院の受け入れや移転期間の外来診療の強化など、当院の負担減につながるご協力のお申し出をいただきました。平素からの顔の見える地域連携の大切さを改めて感じた次第です。本当にありがとうございました。

移転後の患者さんの数は予想通り外来、入院とも増えており、特に救急受診患者さんが土日祝日を中心に前年比2割ほど増加しています。また救急車の搬送台数は毎年右肩上がりに増えており、H30年度は1年間で7400台あまりに達しました。独居や老老介護の高齢者が増え、救急車で来院せざるを得ないケースが増えているためと考えます。当院では「救急車を断らない」をモットーとしておりましたが、昨年度は1年で90件ほどの受け入れ困難事例が生じました。救急センターの診察スペースがすべて埋まっており受け入れられなかったためです。岩手県は医師不足が全国一であることはご承知の通りですが、当院は同規模の東北地方の県立センター病院と比較して、看護師数が患者さん100人あたりで30名程も少ないなかで頑張っております。しかし、このような状況が続くことによりスタッフは疲弊し、当院の本来の役割に支障が生じ、接遇や医療安全にまで悪影響が及びかねません。当院の状況を患者さんにもご理解いただき、危機感を共有して意識を改革するために、院内にかかりつけ医への逆紹介をお願いするポスターを多数掲示いたしました。テレビでも取り上げられたことなどもあり、患者さんの方から逆紹介を希望されるケースも出てきております。当院が高度急性期医療・専門医療の機能を果たしてゆくためには地域の医療機関の皆様との役割分担が何よりも大事です。よりスムーズな病診、病病連携のために今後も中央病院地域医療福祉連携室は努力して参ります。来年度もよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

小児科のご紹介

小児科長 三上 仁



岩手県立中央病院小児科の紹介をさせていただきます。

令和2年4月現在当科には8名の常勤医師がおります。(原稿執筆時の2月は7名です)小児科専門医が5名、卒後3年から5年目の小児科専攻医が3名です。非常勤医師2名(小児神経、小児循環器外来担当)と臨床心理士が2名おります。入院が考慮される患者さん、そうでなくても何かお困りの症例はどうぞご紹介ください。患者さんが軽快された後は紹介元の先生にお返しいたします。



腎疾患、学校検尿陽性者などを対象とする腎外来(三上、工藤)、低身長、成長障害、糖尿病などの内分泌外来(三上、梅木)、発達障害外来(西野)、神経外来(福與なおみ非常勤医師)、循環器外来(斎藤明宏非常勤医師)などの専門外来を設けております。どうぞご相談ください。県立病院で唯一、小児外科の常勤医がおりますので外科的疾患にも応じます。ほぼ全ての小児内科領域の疾病に対応しておりますが、血液腫瘍性疾患、手術適応のある循環器疾患は岩手医大小児科に紹介しております。

入院病床は22床、うち6床は新生児病床です。新生児は在胎30週以上を受け入れ基準にしておりますが、ベッドがあけばすぐ埋まってしまう状況です。少ない病床ながら岩手医大と連携を密にして地域周産期医療センターとしての役割を果たしております。食物アレルギーを持つ患者さんも少なくなく、その需要に応じるため食物経口負荷試験を積極的に行っております。完全除去をなるべく避け、安全な摂取量を決めてその範囲内で食べさせていく治療をおこなっております。

時間外や休日の救急外来では、研修医と指導医がペアになり患者さんを診療します。小児輪番日ではない日のルールとして決めている3原則がありますのでご紹介します。まず、①救急車は断らない ②当院でフォローしている患者さんは断らない ③そうでない患者さんは輪番病院にお願いします、です。非小児輪番日でも当院に救急車の受け入れ要請があるのは、何か理由があるからです。例えば、てんかんでかかっている患者さんがけいれん発作を起こした場合です。そういう患者さんは受け入れを断らず小児科のオンコール医を呼んでもらうようにしています。同様の理由でウォークイン患者さんも非輪番



日では受診を断らないようにしています。外来を受診して日が浅く、症状が安定していない場合も時間外の受診を断らないようにしています。当院が輪番日ではない日に当院かかりつけでない患者さんは輪番病院を受診するように誘導しています。岩手医大が矢巾に移転した後も、この原則に変わりはありません。医大移転後に当院の受診が増えて負担が増えたということは現場感覚からは今のところないと思います。

登録医ご紹介コーナー

今回は、雫石町の
『いわてリハビリテーションセンター』
をご紹介します。



当センターは、平成4年に岩手県、岩手県市町村会、岩手県医師会および岩手医科大学を出資母体とする財団法人の設立により岩手県が設置し、平成5年10月から県内唯一の公的中核リハビリテーション病院として運営を開始しました。現在は、公設民営として公益財団法人いわてリハビリテーションセンターが運営し、診療部門は回復期リハビリ病棟100床を主体に、外来・通所リハビリテーションと訪問事業所による訪問看護・訪問リハビリテーションを運営しています。

また、地域支援部においては、平成11年より地域リハビリテーションにおける岩手県支援センターとして岩手県の地域リハビリテーションの推進に寄与して参りました。さらに研究開発部を中心に、昨年度はリハ関連学会に51の演題発表を行いました。

当センターに入院する患者さんの疾患は、脳血管障害>整形外科疾患>神経系疾患>その他の順に多い傾向があります。特に昨年度からは、急性期治療を終えた患者さんが速やかに回復期リハビリテーション病棟へ転院が出来るよう、速やかな転院を心がけております。

昨年、当センターの医療連携室では、中央病院を初めとする急性期病院の先生方と連携を深めることと我々の課題を明らかにするために、アンケート調査を依頼させていただきました。ご多忙の折にも関わらずご回答いただいた先生方に感謝するとともに、皆様のニーズに応えるべく検討を行い、現在その実践に努めております。

来年度は、依頼の多かった高次脳機能障害と摂食嚥下障害の評価と治療、ボツリヌスによる痙縮の治療、運転シミュレーターによる運転再開支援、上肢不全麻痺に対する集中訓練（CI療法）等に対して更なるバージョンアップを行って参ります。

最後に、今後も中央病院の先生方およびスタッフの皆様とは連携を密にし、皆様のサポーターとして信頼される病院になれるよう尽力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

住 所	〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243
電 話 / F A X	☎ 019-692-5800 / FAX 019-692-5807
診 療 科 目	リハビリテーション科、脳神経内科、整形外科、脳神経外科
診 療 日	月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く） ※入院者のみ土日もリハビリテーション実施
診 療 時 間	午前9時～午後5時
病 床 区 分	一般病床（回復期リハビリテーション病棟100床）
面 会 時 間	平日・休日ともに午前8時～午後9時
紹 介 予 約 制	原則、医療機関からの紹介状が必要



高齢化などにより緊急入院が必要な疾患で当院に救急搬送される患者さんを地域の医療機関のみなさんと連携して支えていく仕組みとして、当院では4つの地域連携パスを運用しています。

●脳卒中地域連携パス●

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血で急性期治療が必要な患者さんが対象です。

脳卒中による入院(H31.4~R1.12)		そのうち、連携パスを利用した転院		連携医療機関 回復期担当:12施設 維持期担当:62施設
患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	
669名 前年度比+88名	18.2日 前年度比-1.1日	387名 前年度比+103名	21.6日 前年度比-1.3日	

●大腿骨(頸部・転子部)骨折地域連携パス●

大腿骨(頸部・転子部)を骨折され手術が必要な患者さんが対象です。

大腿骨骨折による入院(H31.4~R1.12)		そのうち、連携パスを利用した転院		連携医療機関 回復期担当:12施設 維持期担当:66施設
患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	
143名 前年度比-6名	21.6日 前年度比±0.0日	90名 前年度比+17名	23.0日 前年度比-1.6日	

●急性肺炎地域連携パス●

高齢者の誤嚥性などによる急性肺炎で緊急入院が必要な患者さんが対象です。入院から3日～5日で連携医療機関に転院し、継続治療を受けていただきます。(早期転院について患者さんと家族に充分説明し理解を得ます。)

急性肺炎による入院(H31.4~R1.12)		そのうち、連携パスを利用した転院		連携医療機関 継続治療担当 :15施設
患者数	平均在院日数	患者数	平均在院日数	
273名 前年度比-75名	16.9日 前年度比-3.3日	34名 ※H31.3運用開始	6.4日 ※H31.3運用開始	

●尿路感染地域連携パス●

※R2年1月利用開始のため実績データはありません。

高齢者の尿路感染症で緊急入院が必要な患者さんが対象です。入院から3日～5日で連携医療機関に転院し、継続治療を受けていただきます。(早期転院について、患者さんと家族に充分説明し、理解を得ます。)

今年度も連携医療機関の皆様のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。
当院では地域連携パスの運用にご協力いただける連携医療機関を募集しております。ご興味がありましたら、地域医療福祉連携室にお問い合わせください。

※入退院支援加算等の施設基準の届出をすることにより診療報酬の算定ができます。

🌸～イベント情報～🌸

第66回 岩手県立中央病院健康講座

放射線をつかった診断と治療 【事前登録不要・入場無料】

日時：令和2年4月18日(土) 14:00～16:30 (受付13:30～)

場所：プラザおでって 3階おでってホール (盛岡市中ノ橋一丁目1-10)

問合せ：業務企画室

※今後の状況によって再度日時変更等の可能性もあるため、事前にHP等でご確認ください。

